



LED の光度調整について

目次

1. 概要.....	2
2. 電流値による方法.....	2
3. 電流値による方法の問題点.....	3
4. パルス幅変調(PWM)による方法.....	3
5. まとめ.....	4

本書内に記載する型番 NECW425B および型番 NSCR426B は、弊社製品の型番であり、商標権を有する可能性のある他社製品といかなる関連性・類似性を有するものではありません。

1. 概要

LED を使用するにあたって、その使用用途に応じてLEDの明るさを調節することは非常に重要です。LED の明るさを調節するには2つの方法があります。1つは電流値による方法であり、もう1つはパルス幅変調 (PWM) による方法です。

本書ではこれらの2つの方法を、日亜化学工業のLED を例に挙げて説明します。

2. 電流値による方法

LED の明るさは、電流値を変えることによって変化します。図1は NECW425B (White) および NSCR426B (Red) の順電流・相対光度特性を示したものです。

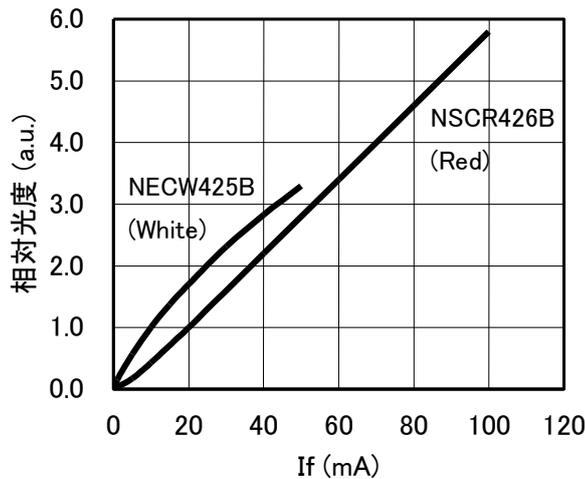


図 1. NECW425B および NSCR426B の順電流・相対光度特性

まず、NECW425B の光度と電流の変化を見てみます。10mA のときの光度を1倍とすると、20mA のときの光度は1.7倍であることがわかります。50mA のときは3.3倍です。このことから、電流値を上げると、光度も上がることがわかります。このとき、図1からわかるように、NECW425B の場合、相対光度と電流値の関係は比例関係にありませんが、NSCR426B の場合は、相対光度と電流値の関係は比例関係にあります。これは赤のダイス、青のダイス(白色には青のダイスが使用されています)の物性が異なることにより発生しています。

表1はNECW425Bの光度ランク表です。

表 1. NECW425B の光度ランク表 (Ta=25°C, IF=10mA)

ランク / Rank		
O	P	Q
Typ.	Typ.	Typ.
175	250	350

[単位:mcd]

Pランクの場合、10mA のときの光度は250mcd ですから、このLED は20mA のときには、

$$250 \times 1.7 = 425 \text{ mcd}$$

であり、50mA のときには、

$$250 \times 3.3 = 825 \text{ mcd}$$

になります。

3. 電流値による方法の問題点

2章に示したように電流値を変えることによってLEDの明るさを制御することができますが、この方法による問題点が出てきます。図2はNECW425Bの順電流・色度図特性を示したものです。

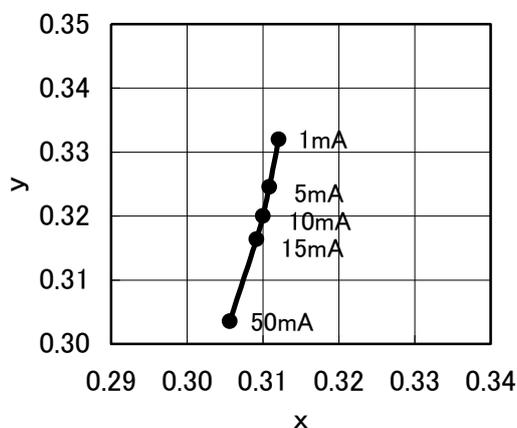


図 2. NECW425B の順電流・色度図特性

図2によると、電流値が1mA、5mA、10mA、15mA、50mAと変わるにつれて、(x, y)の値が変化しています。これを色度図で見ると、y値の小さい方向、すなわち波長が短い方向にシフトしています。このことから、電流値を変えると発光色も変わることがわかります。

4. パルス幅変調(PWM)による方法

電流値を変える方法では、光度を変化させることができますが、発光色も変わってしまうという問題があることは上に述べたとおりです。それでは次に、電流値を変えずに光度を変化させる方法を考えてみます。

図3に示すように、回路に電流を流したり止めたりすることのできるスイッチを取り付けたとします。このスイッチをつける、消す、つける、消すという動作を繰り返し、これをどんどん早くしていくと、あるところで人間の目には常にスイッチをつけている、つまり消えることなく常に光がついているように見えるようになります。

しかし、実際は電流が流れる、止まる、流れる、止まるという繰り返しなので、電流が流れる時間と、電流が流れていない時間を変えることにより、明るさを変化させることができます。つまり、電流が流れる時間が長いほど明るくなり、電流が流れる時間が短いほど暗くなります。図4はこのときの電流値と時間の関係を示したものです。

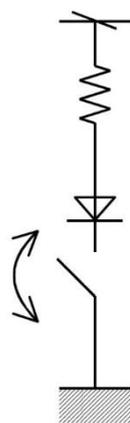


図 3. 回路図

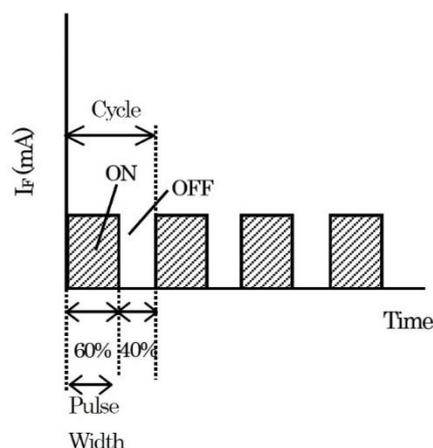


図 4. パルス幅変調(PWM)

図 4 の斜線の部分が光っているところです。電流値は一定なので発光色は変化しません。このとき、図 4 に示されるように、電流が流れはじめてから、流れなくなって、次に流れはじめるまでの間を周期といい 1 つの周期のなかで電流が流れている時間のことをパルス幅といいます。デューティー比とは、周期に対するパルス幅の比のことです。図 4 の場合ならデューティー比は $60/100$ (60%) となります。

5. まとめ

以上のように、LED の光度を調節するには、電流値による方法と、パルス幅変調による方法の 2 つの方法があります。アプリケーションに応じて、これらの方法を使い分けて光度調整をすることが重要です。

<免責事項>

本書は、弊社が管理し提供している参考技術文書です。
本書を利用される場合は、以下の注意点をお読みいただき、ご了承いただいたうえでご利用ください。

- ・ 本書は弊社が参考のために作成したものであり、弊社は、本書により何らの保証をも提供するものではありません。
- ・ 本書に記載されている情報は、製品の代表的動作および応用例を示したものであり、その使用に関して、弊社および第三者の知的財産権その他の権利の保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- ・ 本書に記載されている情報については正確を期すべく注意を払っておりますが、弊社は当該情報の完全性、正確性および有用性を一切保証するものではありません。また、当該情報を利用、使用、ダウンロードする等の行為に関連して生じたいかなる損害についても、弊社は一切の責任を負いません。
- ・ 弊社は、本書の内容を事前あるいは事後の通知なく変更する場合がありますのでご了承ください。
- ・ 本書に記載されている情報等に関する著作権およびその他の権利は、弊社または弊社に利用を許諾した権利者に帰属します。弊社から事前の書面による承諾を得ることなく、本書の一部または全部をそのままあるいは改変して転載、複製等することはできません。

日亜化学工業株式会社

<http://www.nichia.co.jp>

774-8601 徳島県阿南市上中町岡491番地

Phone: 0884-22-2311 Fax: 0884-21-0148